



住民ニーズに基づく 「声掛け名簿」と 防災マップのコラボレーション

岡山県備前市片上地区支えあい実行委員会
会長 橋本 恵正



1 片上地区の概要

岡山県の東南端に位置する備前市の中心に片上地区があります。ここは、瀬戸内特有の小高い山と海に囲まれ、風光明媚なところですが、約6割が土砂災害警戒区域に、約1割が津波浸水想定区域に指定され、災害リスクの高い地域となっています。とは言え、比較的災害の少ない地域ですが、有事の際にはまず“逃げる”ことを念頭に、地域の結びつき、ご近所どうしの支えあいを大切にしながら住民約3,000人が暮らしています。

2 支えあい実行委員会の活動

(1) 「声掛け名簿」の作成

私たちは、平成23年に発生した東日本大

震災を目の当たりにしたことで、自治会を中心とした「片上地区支えあい実行委員会」を設立しました。活動の一步として、愛媛地域福祉研究会、愛媛大学の鈴木静副学長（現）の協力を得て住民のニーズを把握する調査を全世帯に実施しました。その結果、災害時における高齢者・障がい者といった要援護者の名簿作成を望む声が多く要援護者名簿を作成しました。これが現在、避難が必要な時にひと声かける「声掛け名簿」として活用されています。この名簿は現在まで3回更新しています。

(2) キーパーソンは町内会長

片上地区では年度変わりに、支えあい実行委員会の歴史、これまでの取り組みなどを紹介する勉強会を開催し、15町内会長の防災に対する意識の高揚を図っています。

その功もあってか、「防災学び塾」や「支えあいフォーラム」、「防災訓練」、「避難所開設訓練」などをこれまで10年間継続して開催することができています。町内会長の牽引で顔の見える関係が築け、地域コミュニティの活性化にもつながっていると実感しています。

声かけ名簿個人票					
地区		組		2024年 7月	
ふりがな		男・女	M・T・S		
本人氏名			年 月 日生 (歳)	土砂災害警戒区域 特別 警戒 津波浸水想定区域 2m 1m 0.3m	
住 所			Tel		
			携帯Tel		
ふりがな		男・女	M・T・S		
世帯主氏名			年 月 日生 (歳)		
災害時の困り事					
支援希望内容					
災害時の災害 時に備える 能力					
緊急連絡先	No	氏 名	続柄	連絡先・電話	備考
	1				
	2				
	No	機関名 (病院・介護事業所)	担当者	連絡先・電話	備考
	1				
	2				

声かけ名簿個人



防災学び塾の様子



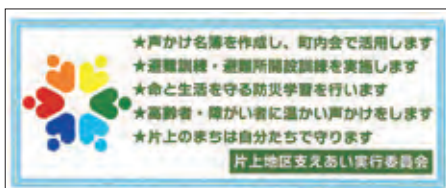
避難所開設訓練の様子

(3) 高齢者、障がい者も参加した活動

高齢化率の高い片上地区では、高齢者とのつながりの強化として、地域包括支援センターの協力を得て「認知症サポーター養成講座」を地区内にある県立備前緑陽高校や各町内会で行い、「認知症見守り声掛け訓練」を行っています。また、障がい者も参加した防災訓練を行うことで、支えあうことの大切さを共に学び、それが誰にも優しい街づくりの根幹となっています。

(4) 幅広い取り組み

近年では、「片上地区防災計画」を策定してステッカーに落とし込み、また、「防災カレンダー」には過去の災害や今年度の行事を入れ、それらを片上地区全世帯に配布し、住民の防災意識の高揚・継続に努めています。備前市から各世帯に防災マップが配布されましたが、片上地区の過去の災害も記載した、片上地区の住人にわかりやすい「かたかみ防災の手引き」を作成し地区内の各戸に配布しています。



地区防災計画ステッカー

3 「声掛け名簿」と防災マップのコラボレーション

平成30年の西日本豪雨災害発生時、備前市に大雨特別警報は発令されませんでした。が、「声掛け名簿」による声掛けにより、避難希望者の避難は完了し功を奏しました。また台風接近時、避難所が開設されると「声掛け名簿」により避難の声掛けを行っています。令和4年には「声掛け名簿」を更新し、併せて「世帯別名簿」も作成しました。令和6年の「防災学び塾」で岡山理科大学の佐藤丈晴教授から、“過去の災害事例をみると土砂災害は防災マップの危険箇所ですべて起きている”と教わり、防災マップ上の土砂災害特別警戒区域に住居を構える世帯にもアンケートを取り、了承を得た世帯は「声掛け名簿」に追加しました。「声掛け名簿」は、個人情報に配慮して片上地区15町内会毎に作成し、町内会長が責任を持って管理しています。町内会によって危険箇所該当件数に差があり、少ないところは名簿に記載を完了していますが、多いところは現在進行中です。ゆくゆくは平成2年、平成16年に水害に見舞われた地域も危険箇所として名簿に記載していく予定です。